

【主な出来事】

- ドドン大統領は、次期大統領選挙を2020年11月8日に実施することを提案した。
- ドドン大統領は、ロシアを訪問しCIS非公式首脳会議に出席したほか、プーチン露大統領と会談してロシアからの新規融資や天然ガスの供給問題等について話し合った。

1. 内政

▼世論調査結果

- ・17日、民間調査機関IMASの世論調査結果が発表された。
- ・65%がモルドバは間違った方向に進んでいると回答。また、80%が現在の経済状況に不満と回答。
- ・政権の交代については、36%が良かった、35%が良くなかったと回答。また、50%がサンドゥ首相は政府を誤った方向に導いたと回答、37%がサンドゥ首相は正しかったと回答。
- ・連立の形については、社会党と民主党の連立が好ましいと答えたものは33%、ACUMと民主党は9%、ACUMと社会党は9%、早期選挙が好ましいとの回答は31%。
- ・最も影響力のある政治家としては、ドドン大統領との回答は28.6%、サンドゥ前首相は18.9%、フリブ元首相は7.6%、ポローニン共産党議長は7.5%、プラホトニウ前民主党党首は3.6%。
- ・政党支持率は、社会党32.1%、PAS22.7%、民主党11.3%、共産党5%、ショール党4.2%、我らの党3.8%、DA1.7%。

▼フンチェシティ選挙区での議会補欠選挙、3月15日実施

- ・27日、中央選挙委員会は、第38選挙区(フンチェシティ地区)の議会補欠選挙を2020年3月15日に実施することを決定した。同補欠選挙は、ボトナリ議員(民主党)が先の地方選挙においてフンチェシティ市長に当選して議員辞職したことで欠員となったために実施されるもの。

大統領

▼次期大統領選挙の11月8日実施を提案

- ・26日、ドドン大統領は、次期大統領選挙を2020年11月8日に実施することを提案した。この場合、同選挙キャンペーンは9月8日に開始される。

政府

▼新知財庁長官の任命

- ・27日、政府は、新しい知財庁長官にビオレル・ユスティン氏を任命した。同氏は同庁特許課長から昇格した。

議会

▼2020年国家予算の採択

- ・19日、議会は、2020年国家予算の審議を終え採択した。歳入441億レイ(25.2億ドル)、歳出515億レイ(29.

4億ドル)、財政赤字74億レイ(4.2億ドル)、財政赤字の対2018年GDP比3.7%。

▼組合資産の民営化調査特別委員会設置

- ・19日、議会は、モルドバ独立以降の組合資産の民営化を調査する特別委員会を設置した。同委員会の設置を提案したACUMは、数百万ドルの国家の資産が労働組合幹部によって低価格で売却されたと説明した。

2. 外政

▼キク首相の欧州評議会訪問

- ・16日、キク首相は訪問先のストラスブールにおいて、ペイチノビッチ・ブリッチ欧州評議会事務局長と会談し、モルドバの司法改革の現状や人権問題について話し合った。

▼チョコイ外務・欧州統合相のドイツ訪問

- ・16日、チョコイ外務・欧州統合相は訪問先のドイツにおいて、Teichmann 独内務次官と会談し、内務・安全保障分野の協力、増加するモルドバ市民からの亡命要請への対応、国境警察間の協力等について協議を行った。また、17日には Flachsbarth 経済協力・開発省次官と会談し、現在モルドバで行われている改革やインフラ・プロジェクト、エネルギー安全保障問題等について意見交換を行った。

▼キク首相の中欧イニシアティブ・サミット出席

- 19日、キク首相は、ローマで開催された中欧イニシアティブ・サミットに出席。キク首相は、モルドバとEUとのパートナーシップは戦略的なものであり、政府は連合協定の実施にコミットしている旨強調しつつ、モルドバは司法改革やエネルギー・インフラへの投資、経済の近代化、生活レベルの改善等について新しい欧州委員会と協力することにオープンであると述べた。

会合の-marginでコンテ伊首相と意見交換を行ったキク首相は、文化面での二国間協力などについて話し合った。

▼ドドン大統領のロシア訪問

- ・19日～21日、ドドン大統領は、ロシアを訪問した。帰国後の記者会見において、ドドン大統領は、ロシアからの3億ドルの融資協定が来年2月のモルドバ議会において承認される予定である旨、モルドバは引き続きウクライナ経由の伝統的なルートでロシアからの天然ガス供給を受けると述べた。

- ・ドドン大統領は、自身のモスクワ訪問を振り返りつつ、プーチン露大統領との会談においてモルドバにおける大規模なインフラ・プロジェクトへの融資の可能性について議

論を行った旨説明した。また、ドドン大統領は、サンクトペテルスブルグにおいて行われたCIS非公式首脳会議のマージンでプーチン大統領と話し合い、ロシアはモルドバへの天然ガス供給に関する現在の合意を3年間延長することに合意した旨述べた

▼ドドン大統領のトルコ訪問

・30日～31日、ドドン大統領はトルコを訪問した。同訪問には、キク首相やバトルンチャ議会副議長、ブラフ・ガガウズ自治区長官らが同行した。

・31日、エルドアン大統領と会談したドドン大統領は、二国間関係の進展に満足の意を示しつつ、今次訪問の機会に二国間の戦略的協力委員会ハイレベル会合が初めて開催される運びとなったことは両国の政治対話強化に向けた意思の表れであると評価した。また、ドドン大統領は、トルコからの一連の経済協力に対して謝意を表しつつ、経済関係のさらなる発展に期待を示した。

3. 経済

▼バルツィ経済特区、工学分野のイノベーション・研究開発パークを建設

・18日、バルツィ経済特区は、工学分野におけるイノベーション・研究開発パークを建設するため、既存のスペース各3,000㎡を5百万ユーロかけて改装する計画を発表した。改装資金は、オーストリアのEEEグループ内BITメディア(eソリューション技術分野)が、25年間無利息で融資する。

▼EU、モルドバ産果物輸入を増加

・20日、EU理事会は、モルドバ産果物輸入の追加割当許可を承認した。ブドウ(現在の2倍)、プラム(現在の50%増)、チェリー(1500トン増)。

▼キシニョフ国際空港、ロシア人実業家に売却

・23日、Nat Rothschild社は、所有する空港管理会社Avia Investの株式95%をロシア人実業家に売却した。

・キシニョフ空港の新たな所有者は、ガस्पロムの元トップマネージャーである実業家アンドレイ・ゴンチャレンコ氏となった。同氏は、大型航空機用の新しい滑走路、新しいターミナルの建設を行い、年間500万人の利用に増やすための総額2億ドルの投資を行う旨表明した。

▼ガスのウクライナ・トランジット契約の締結

・27日、モルドバガス、モルドバ・トランスガス及びウクライナ・トランスシステムオペレーターは三者は2020年1月1日からロシア産ガスのトランジットに関する契約を締結したことを発表した。

▼キシニョフ市、2020年予算を採択

・27日、キシニョフ市議会は、2020年の市予算を採択。歳入は43億レイ(2.45億ドル)、歳出は46億レイ(2.63億ドル)、財政赤字は291百万レイ(16.6百万ドル)。
・財政赤字の補填は市保有不動産の売却、海外・国内金融機関からの借り入れを見込んでいる。

▼経済・インフラ省、国内乗客輸送運賃の値上げ発表

・27日、経済・インフラ省は、2020年1月1日から国内の

乗客輸送運賃基準の値上げを発表した。現在の1kmあたり0.48レイ(0.027ドル)を0.6レイ(0.034ドル)とする。

各種統計

▼2019年1～9月までのGDP統計

・16日、国家統計局は、2019年1～9月のGDPに関するデータを公表した。GDP総額は、1,552億レイ(88.69億ドル)で前年同期比4.8%増。

・GDPのプラス要因内訳は、卸売及び小売業、自動車・自動二輪車のメンテナンス・修理、輸送・倉庫業、宿泊施設等21.3%(対前年同期比1.2%増)、建設業9.9%(同1.7%増)、鉱業・加工業、電気、ガス、温水、空調の供給、配水、衛生、廃棄物処理等14.2%(同0.6%増)、情報通信4.8%(同0.4%増)、農業、林業、漁業8.8%(同0.3%増)等。

▼2019年1～10月の貿易統計

・16日、国家統計局は、2019年1～10月の貿易に関するデータを公表した。

・輸出総額は23億ドル、前年同期比3.4%増。輸出内訳は、機械及び輸送機器24%、食品・家畜22.3%、非食原料10.6%、飲料・たばこ7.8%、その他製品21.3%。輸出先は、対EU65.5%、対CIS15.5%。

・輸入総額は48億ドル、前年同期比1.7%増。輸入内訳は、機械及び輸送機器24.2%、加工品19.8%、鉱物燃料15.5%、化学製品14.6%、食品・家畜10.1%、その他製品10.9%。輸入元は、EUから49.8%、CISから24%。

・対日輸出総額は150万ドル、前年同期比8.9%増。日本からの輸入総額は41百万ドル、前年同期比9.32%減。

・貿易赤字は25億ドル、対前年同期比0.1%増。

▼高等教育機関の活動

・23日、国家統計局は、モルドバには27の高等教育機関があり、そのうち18校が国立、9校が私立と発表した。首都キシニョフには23校あり、バルツィ、カフル、コムラツト、タラクリアにそれぞれ1校がある。学生総数は56.8千人で、前年比3.8千人減少。

▼2019年の火災死亡者216人、交通事故死232人

・24日、政府は、2019年に国内で1,524件の火災が発生し216人が死亡した旨、また、交通事故は2,307件発生し232人が死亡した旨報告した。

▼2019年11月の海外からの個人送金

・26日、モルドバ国立銀行は、2019年11月の海外からの個人の送金額が101.4百万ドル(対前年同月比2.1%減)と発表した。

・1～11月の累計額は、11.15億ドルで、前年同期比55.7百万ドル、5%減。

・送金元は、ロシア18.6%、イスラエル18.4%、イタリア11.6%、ドイツ9%、米国6.7%。

▼2019年末時のモルドバ外貨準備高

・27日、モルドバ国立銀行は、2019年12月27日時点の外貨準備高が30.53億ドルになったと報告。年初よりも71百万ドル増。

経済協力

▼EBRD, 中小企業向け7.5百万ユーロの追加融資

・24日、EBRDは7.5百万ユーロの追加融資を承認した。アグロインバンクを通じて中小企業向け融資を行う。EBRDの融資は、製品の品質を高め、競争力を高め、EUとの貿易を促進するために提供される。

4. トランスニストリア

▼フレンケア国家再統合担当副首相とイグナチェフ「外相」との会談

・16日、フレンケア国家再統合担当副首相はイグナチェフ・トランスニストリア「外相」と会談した。会談後の記者会見においてフレンケア副首相は、5+2協議のブラチスラバ議定書について多くの課題が解決され近く署名される見込みである旨述べた。これに対し、イグナチェフ「外相」は、モルドバ側はブラチスラバでの会合において提案された形で署名する準備はできていないとした上で、会合は重要な一歩ではあったがキシニョフ側のアプローチに変化は見られないとした。

(了)